

川柳 二十七年十月 「包む」 「鏡」

やさしさで 包み込まれた 心持ち 山本 昭子

包み開け 言いたい放だい また閉じる 山本 昭子

昔なら 嫁入り道具に 三面鏡 山本 昭子

風呂敷で 包んだ時も あったのね 伊藤 直人

鏡見て 私の顔は 艶がない 伊藤 直人

小包に 故郷の味 ふるさと 詰まってる 伊藤 直人

鏡見る そのたびシワが ふえてそう 西沢 秀子

風呂敷も うまく包めば スカートに 西沢 秀子

ひとことを 丸く包めば 角たたず 西沢 秀子

手鏡で 乱れを直す 薄い髪 堀 輝規

弁当を 包んで開けて つまみ食い 堀 輝期

贈り物 包んで気づく 入れ忘れ 堀 輝期

きみ包む しろみの愛の 深さかな 藤原 輝治

包み紙 一度の命 もったいない 藤原 輝治

心中の もやもや映す 鏡かな 藤原 輝治